

【A年】

復活節第三主日

神よ、誉れあるみ子は、パンを裂くみ姿のうちに、ご自身を弟子たちに示されました。み恵みによってわたしたちの信仰の目が開かれ、贖いのすべてのみ業のうちに主を見いだすことができますように、父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられる主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましょう」

会衆は着席する。

使徒言行録

朗読者 「使徒言行録は第二章十四節から」

14すると、ペトロは十一人と共に立って、声を張り上げ、話し始めた。36だから、イスラエルの全家は、はっきり知らなくてはなりません。あなたがたが十字架につけて殺したイ

エスを、神は主とし、またメシアとなさったのです。」

37人々はこれを聞いて大いに心を打たれ、ペトロとほかの使徒たちに、「兄弟たち、わたしたちはどうしたらよいのですか」と言った。38すると、ペトロは彼らに言った。「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。39この約束は、あなたがたにも、あなたがたの子供にも、遠くにいるすべての人にも、つまり、わたしたちの神である主が招いてくださる者ならだれにでも、与えられているものなのです。」40ペトロは、このほかにもいろいろ話をして、力強く証しをし、「邪悪なこの時代から救われなさい」と勧めていた。41ペトロの言葉を受け入れた人々は洗礼を受け、その日に三千人ほどが仲間に加わった。42彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。

43すべての人に恐れが生じた。使徒たちによつて多くの不思議な業とするしが行われていたのである。44信者たちは皆一つになって、すべての物を共有にし、45財産や持ち物を売り、おのおのの必要に応じて、皆がそれを分け合った。46そして、毎日ひたすら心を一つにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもつて一緒に食事をし、47神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである。

朗読者 「使徒言行録を終わります。」

詩編

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱える。

第二一六編 十二〜十九節

- 12 主が与えてくださったすべての恵みに＝ わたしはど
のようにこたえようか
- 13 救いの杯を献げ＝ 主のみ名を呼び求めよう
- 14 わたしはすべての民の前で＝ 主に立てた誓いを果た
そう
- 15 神を敬う人の死は＝ 主の目に尊い
- 16 主よ、わたしはあなたの僕＝ わたしはあなたに仕え、
あなたはわたしを救われる
- 17 わたしは感謝のいけにえを献げ＝ 主のみ名を呼び求
めよう
- 18 わたしはすべての民の前で＝ 主に立てた誓いを果た
そう
- 19 エルサレよ、おまえの中で＝ 主の家の中庭で、ハレ
ルヤ

使徒書

朗読者 「使徒書はペトロの手紙Ⅰ 第一章十七節から」

17 また、あなたがたは、人それぞれの行いに応じて公平に裁かれる方を、「父」と呼びかけているのですから、この地上に仮住まいする間、その方を畏れて生活すべきです。18 知つてのとおり、あなたがたが先祖伝来のむなし生活から贖われたのは、金や銀のような朽ち果てるものにはよらず、19 きずや汚れのない小羊のようなキリストの尊い血によるのです。20 キリストは、天地創造の前からあらかじめ知られていました。この終わりの時代に、あなたがたのために現れてくださいました。21 あなたがたは、キリストを死者の中から復活させて栄光をお与えになった神を、キリストによって信じています。従って、あなたがたの信仰と希望とは神にかかっているのです。

22 あなたがたは、真理を受け入れて、魂を清め、偽りのない兄弟愛を抱くようになったのですから、清い心で深く愛し合いなさい。23 あなたがたは、朽ちる種からではなく、朽ちない種から、すなわち、神の変わることにない生きた言葉によって新たに生まれたのです。

朗読者 「使徒書を終わります。」

一同立つ。

ここで聖歌を歌う。

福音書

司祭 「主は皆さんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖ルカによる福音書第二十四章十三節以下に記され

た主イエス・キリストの福音。

主に栄光」

会衆 「主に栄光がありますように」

13 ちようどこの日、二人の弟子が、エルサレムから六十
タデオンの離れたエマオという村へ向かって歩きながら、
この一切の出来事について話し合っていた。15 話し合い論じ
合っていると、イエス御自身が近づいて来て、一緒に歩き始
められた。16 しかし、二人の目は遮られていて、イエスだと
は分からなかった。17 イエスは、「歩きながら、やり取りし
ているその話は何のことですか」と言われた。二人は暗い顔
をして立ち止まった。18 その一人のクレオパという人が答え
た。「エルサレムに滞在しているながら、この数日そこで起こっ
たことを、あなただけではご存じなかったのですか。」19 イエ
スが、「どんなことですか」と言われると、二人は言った。「ナ
ザレのイエスのことです。この方は、神と民全体の前で、行
いにも言葉にも力のある預言者でした。20 それなのに、わた

したちの祭司長たちや議員たちは、死刑にするため引き渡
して、十字架につけてしまったのです。21 わたしたちは、あ
の方こそイスラエルを解放してくださいと望みをかけていま
した。しかも、そのことがあつてから、もう今日で三日目に
なります。22 ところが、仲間の婦人たちがわたしたちを驚か
せました。婦人たちは朝早く墓へ行きましたが、23 遺体を見
つけずに戻って来ました。そして、天使たちが現れ、『イエ
スは生きておられる』と告げたと言うのです。24 仲間の者が
何人が墓へ行って見たのですが、婦人たちが言ったとおりで、
あの方は見当たりませんでした。」25 そこで、イエスは言わ
れた。「ああ、物分かりが悪く、心が鈍く預言者たちの言っ
たことすべてを信じられない者たち、26 メシアはこういう苦
しみを受けて、栄光に入るはずだったのでないか。」27 そ
して、モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわた
り、御自分について書かれていることを説明された。

28 一行は目指す村に近づいたが、イエスはなおも先へ行こ
うとされる様子だった。29 二人が、「一緒にお泊まりくださ
い。そろそろ夕方になりますし、もう日も傾いていますか
ら」と言つて、無理に引き止めたので、イエスは共に泊まる
ため家に入られた。30 一緒に食事の席に着いたとき、イエス
はパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになつ
た。31 すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、そ
の姿は見えなくなつた。32 二人は、「道で話しておられると
き、また聖書を説明してくださいださったとき、わたしたちの心
は燃えていたではないか」と語り合った。33 そして、時を移

さしゅつぱつず出しゅつぱつ発して、エルサレムほんとうに戻もどつてみると、十一人にんとその仲間なかまが集あつまって、³⁴本ほん当とうに主しゅは復ふっ活かつして、シモンあらわに現あらわれたと言いっていた。³⁵二ふた人たりも、道みちで起おこったことや、パンはなを裂さいてくださったときにイエスだと分わかった次しだい第だいを話はなした。

司祭 「主しゅに感かん謝しゃ」

会衆 「主しゅに感かん謝しゃします」